

# 広色域印刷に欠かせない 高品質モニター

## 株式会社研文社

本社：大阪市北区堂山町 13-17  
<http://kenbunsysa.ingway.jp/index.html>  
 東京圏は別会社の株式会社東京研文社が担当する。  
<http://t-kenbunsysa.ingway.jp/>



本号より5回連続でナナオのカラーモニターを上手に使っている会社をご紹介したい。それぞれ特色ある使い方に着目していく予定なので、自社に導入する際に参考にいただければと思う。

第1回目についてはいろいろと考えたが、広色域印刷を行っているところは「何はなくとも、モニターが命」なので、広色域印刷の中でも一番歴史のある Hexachrome を長らく手掛けている大阪の老舗印刷会社である株式会社研文社をご紹介する。

研文社は総合印刷会社であり、商業印刷や出版はもちろん、フォーム印刷なども守備範囲にあるが、1998年から Pantone 社の広色域印刷方式である Hexachrome に取り組んでいる。

Hexachrome は名のとおり (Hexa は6を意味する。ちなみに Penta は5で、五角形の米国防省は通称 Pentagon と呼ばれている) CMYK+OG (オレンジとグリーン) の6色インキによる色再現だが、CMYK インキもブルー側の色域を伸ばす工夫などが施されている。

Hexachrome プロジェクトを実際にスタートさせたのが、網野勝彦専務と Hexachrome 関連の技術部分を統括している三浦芳裕リーダーだが(写

真2)、Pantone 社とコラボレーションしながら Hexachrome を普及させてきたことは、単に印刷だけを行ってきた会社とは一線を画している。またデザイン分野にも力を入れ、カレンダーや POP 部門では意欲作が多く受賞作品も多い(写真3)。

さて、広色域印刷が「なぜモニターとの相性が良い(モニターが命)か?」という理由は単純明快である。図1に、通常 CMYK 印刷である Japan Color の色域を図示してあるので見ていただきたい。本来 RGB モニタでは Adobe RGB か sRGB か? の色域差はあるものの、キレイな三角おむすびの形としてモニター上に再現されている。しかし、CMYK 印刷ではおむすびの頂点である Green 域が縮んでしまい俵型のおむすびになってしまっている。ところが、図2の Hexachrome では若干色域は縮まってはいるものの、紙の上にキレイな三角おむすびが再現されている。コレこそが RGB



写真2 網野勝彦専務(右)と三浦芳裕リーダー(左)

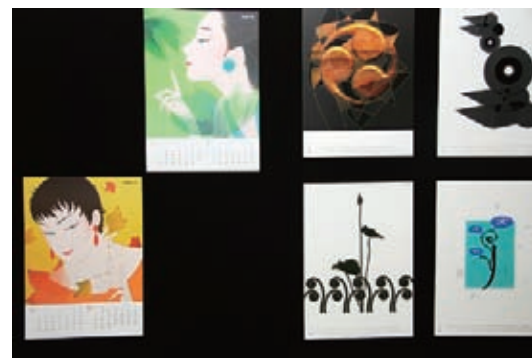


写真3 Hexachrome カレンダー

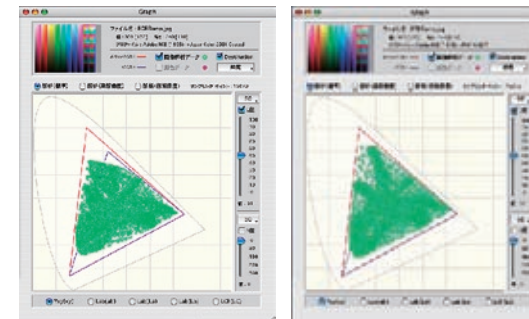


図1 Japan Color

図2 Hexachrome

データを基本とするクロスメディアに最適なのであり、ワンソースマルチユースできる一番大事な基本なのである。要するに RGB フローが素直に実現できるということだ。モニターで見た色が「印刷でこの色は出る、出ない」などと考える必要など全くない。モニターを信じて納得いくまで修正し、それを6色に変換すれば紙の上にモニターの色が再現するという具合である。

オペレーション技法に注目しても RGB でないといけないのがよく分かる。例えば、6色に分版した画像(データ)にレタッチを加えようと思っても CMYK のようには容易ではない。だからモニターを信じて RGB 段階で色を作り込むのが原則となる。これこそが、難しく考える必要のない RGB フローと言えるのだ。このように「RGB フローはモニターワークフロー」と考えることもできるのである。

研文社の場合、Hexachrome がけん引車となって一挙に RGB ワークフローが実現したとも言える。だから、写真4のように色の最終チェックはすべてナナオの CG220 で行っている。カラーディレクター用には CG220 (合計4台) が使用さ



写真4



写真5



写真6

れているが、そのほか、写真5のようにスキャナ接続してあるモニターにも CG220 が使用されており、カラーポジとの色合わせを行っている。印刷が Hexachrome のような広色域印刷だと Adobe RGB の色域は必須で、本来はすべての作業者に CG220 を与えたいところだが、コストを考えてレイアウト中心の作業者はナナオの CG210W (合計10台) を使用している。面白いのは写真6のように1台のモニターに2台の Mac がつながっていることで、MacOS X はデジタル端子に MacOS 9 はアナログ端子に接続されており、モニター側の切替で適時使用されている。大阪は OS 9 比率が極端に高く、OS X に移行した研文社でさえもこのような苦肉の策を取っていると言えよう。OS X は 10.4.11 で CS2 を中心に運用、OS 9 は 9.2.2 で Quark6.5 を動かしている。

メーカー系の仕事が多い研文社では、最近 CG 画像の入稿も増え出している。CGこそ Adobe RGB 再現モニター+広色域印刷にはよく似合う。もちろん OS X でしか受けられない仕事であるが、今後大阪といえども CS3 や CS4 へと比重は移っていくのであろう。研文社の場合に高品質モニター導入のきっかけとなったのは M 社の Adobe RGB 対応の CRT モニターであり、「論ずるより実践」で高品質モニターの有効性が証明されたわけだが、CRT は経年変化に弱く現在も1台残っているが、かつての雄姿はもううかがうことはできない。しかし、ナナオ製液晶モニターになることで、経年変化は克服され、キャリブレーション機能による調子再現品質は、校正刷りをうんぬんするよりもはるかに効率的な作業効率を実現したと言える。

(郡司秀明)